

## 令和元年度フェロー認定（11名）



氏名	石川 正俊
認定時の所属	東京大学
抱負	<p>計測自動制御学会並びに国際計測連合の会長としての経験を活かし、計測制御の分野における諸問題を他の分野に展開すると同時に、新たな分野を構成する際の基盤技術として発展できれば、日本の工学諸分野の発展に寄与できるものと考えております。また、科学技術の急速な進歩と多様化の中で、新たな価値を創出するシステムの構築に向けて、異分野のシナジー効果の創出に尽力したいと考えております。今後の科学技術の発展は、旧来型の帰納的なアプローチばかりでなく、仮説演繹的な構造の導入が不可避であり、システム指向の計算論的思考の必要性が高まっており、その基盤としての整備と先端技術としての展開を図って行けたらと考えております。</p>
氏名	大島 まり
認定時の所属	東京大学
抱負	<p>高齢化社会となる我が国において、医療に対するニーズは今後、益々増大すると考えられる。より安全かつ安心できる医療に向けて、医工連携の立場より、バイオエンジニアリングの振興に努めたいと考えている。</p> <p>一方、人材育成という観点より、我が国は工学系分野における女性研究者・技術者が少ない。そこで、工学系におけるダイバーシティの推進にも携わっていきたいと考えている。女性が工学系にあまり興味・関心を示さないのは、どのような職種があり、どのようにキャリアを築いていくべきか、イメージしづらいためとされている。</p> <p>また、近年、科学技術が著しく変化しているにもかかわらず、工学に対して旧態依然としたイメージしか持っていない事も原因と考えられる。そこで、TEM/STEAM (Science, Technology, Engineering, (Arts), and Mathematics) 教育を通して、若い人に工学系に興味を持っていただけるような教育プログラムを開発し、普及することで、若手の人材育成に重きを置いた活動を展開していききたい。</p>
氏名	木口 昭二
認定時の所属	近畿大学
抱負	<p>今世紀は地球環境とエネルギーに最も配慮が必要な世紀である。日本のものづくりの基盤産業である casting 分野において、産官学の連携をより一層つとめることにより、将来の産業構造の変革を推進し、環境問題とエネルギー問題が相互に解決でき、豊かな社会の実現に貢献したい。</p>

氏名	高橋 桂子
認定時の所属	海洋研究開発機構
抱負	我が国の発展の基盤である工学分野は、近年の急速に発展する情報諸分野との融合による分野横断的な視点とさらなる横断的協力により、人口減少や地球環境変化にも対応可能な社会の礎となる新たな学術基盤を築く必要がある。日本工学会における学術、科学、工学分野の広い分野横断的な組織特性を活かして、新しい工学の取り組みの可能性を検討し、具体的な活動につなげられるような取り組みを考えたい。また、日本工学会においては人材育成のための活動も幅広くなされていることから、特に女子学生、女性研究者を含む多様な人材がさらなる活躍の場を広げられるような取り組みを検討したいと考えている。（令和6年9月更新）
氏名	西山 繁
認定時の所属	慶応工学会
抱負	この度、日本工学会のフェロー候補に推薦頂き、光栄に存じます。2年間理事として種々の活動について勉強させていただきました経験を基に一層お役にたてるように頑張っていく所存でございます。日本の科学技術は、理学および工学を両輪として発展してきたことと考えております。ただ、現状では日本の主だった学会では一部を除いて会員減少の傾向をはじめとして看過できない問題が山積しております。日本工学会は、このような喫緊の問題に対処すべく、従来の工学系主体にとどまらず理学系の学会などを含めて広く工業立国日本の将来のために議論、情報発信を行っていくことが肝要と考えております。この活動を進めて産官学が同一の土俵で議論できる場を早急に設定していくためにも、可能な限り努力していきたいと考えております。
氏名	東野 輝夫
認定時の所属	大阪大学
抱負	
氏名	藤代 一成
認定時の所属	慶應義塾大学
抱負	
氏名	前田 章
認定時の所属	科学技術振興機構
抱負	
氏名	三宅 淳巳
認定時の所属	横浜国立大学
抱負	安全、環境、防災に代表される現代社会における地球規模課題の解決のためには、個別要素的対応ではなく、自然科学、人文科学、社会科学等、広範な分野を統合した取り組みが必要であると認識しています。 日本工学会フェローとして、これまでの安全工学やリスク管理学に関する研究、教育、産官学連携、海外連携等の経験に基づき、引き続き安全・安心・健全・快適な社会の構築のために、尽力したいと存じます。特に、工学の特徴であるシステムの最適化とリスクベース工学に基づいて、現代社会に潜在する各種のリスクを適切に把握し、災害の未然防止、顕在時の被害低減、人命・健康や財産の防護を可能にする方法について、産官学ならびに市民の皆さんと情報共有ならびに意見交換する場を作りたいと考えます。 また、技術システムの研究開発から建設、製造、事業化、産業化に至る社会実装においては、それらシステムの有するリスク情報の共有化と、意思決定に至る議論のプロセスの透明化を図ることにより社会受容性を獲得することが不可欠であることから、工学者の立場から、公正な倫理観に基づいて、工学や科学技術に対する理解を深めていただけるような活動を行うとともに、分野横断的な新たな学術分野の創生に向けた活動を行いたいと存じます。（令和6年8月更新）

氏名	安田 進
認定時の所属	東京電機大学
抱負	<p>地震や豪雨・火山といった災害が多く発生し易い日本においては、古くからその防止、軽減のための研究や技術開発が行われてきましたが、それにもかかわらず最近ますます災害が増えてきている感があります。この主要な要因としては、温暖化などの地球環境の変化、戦後多く建設された構造物の劣化、社会構造の複雑化といったものが挙げられます。また、耐震設計や補強といった技術の進歩により構造物自体の耐力は上がってきたのに対し、それを支える地盤の耐力は上げにくいことと、盛土造成宅地などの災害に弱い人工地盤が近年多く造られてきたことが挙げられます。したがって、防災・減災に向かって地盤工学の責任は重大であると考えています。</p> <p>私は、地震時の地盤の液状化や斜面崩壊を中心に、地盤工学の立場でこのような災害の予測・防止に関する研究・技術開発をこれまで行ってきましたが、我が国および世界各国を対象にした場合、地盤工学だけでとても解決できる問題ではないことを、最近ひしひしと感じています。国土計画、都市計画、土木工学、建築学、安全工学、機械工学、人工知能など、広い分野の方々と一体となって防災・減災を目指していく必要があると思っています。その意味で多くの関連分野と一緒に活動できる日本工学会が果たせる役目は重要であり、現状に加えて活動の場をさらに設けたり、参加させていただきたいと思っています。そして、その場合に地球環境変化や人口減少など、社会変化の時間軸を念頭においた活動をし、社会に貢献していきたいと思っています。</p>
氏名	山本 隆司
認定時の所属	東京農工大学
抱負	
氏名	横山 明彦
認定時の所属	東京大学
抱負	<p>日本工学会での活動を通じて、電気エネルギー分野の観点から、より良い未来社会の構築のために貢献できればと考えています。電気エネルギー供給システムを例にして考えてみますと、2011年の東日本震災以降、電力システム改革で、競争体制の構築、費用の削減等に精力を集中していた電気事業全体が、ようやくSociety5.0ビジョンを基に、IoT、Big Dataなどを活用して、夢のある将来像を描き前向きに進もうとしています。この機会に、電気エネルギーだけでなく様々な分野の方々と協創をし、電気エネルギーをベースにした活気溢れる社会に向けて、システムとハードウェアの技術開発、ビジネスモデルの開発等において何をすればよいか等を考えていきたいと思っています。（令和6年8月更新）</p>